読書の家から

新刊案内

■あぶた読書の家

〈一　般〉▽オー！ファー、バイバイ・ブラックバード（伊坂幸太郎）▽逆境を生きる（城山三郎）▽誉れあれ（東直巳）▽おはぐろとんぼ（宇江佐真理）▽虚国（香納諒一）▽アイム・ファイン（浅田次郎）▽ももこのまんねん日記（さくらももこ）▽兇弾（逢坂剛）▽橋（橋本治）▽新・御宿かわせみ　花世の立春（平岩弓枝）▽きみ去りし後・十字架（重松清）▽炎天（吉村昭・津村節子）▽天網（今野敏）▽東京アクアリウム（小池真理子）▽私の家では何も起こらない（恩田陸）▽真昼の花火（吉村昭）▽北紀行（佐々木譲）▽最も遠い銀河〈上・下〉（白川道）▽パーフェクト・ブルー（宮部みゆき）

〈児童書〉▽捨て犬フラワーの奇跡余命一週間の犬（樋浦知子）▽まめうしのももいろのはる、まめうしのびっくりなあき（あきやまただし）▽トロール・フェル〈上・下〉（キャサリン・ラングリッシュ／訳：金原瑞人）▽９９９匹の兄弟の春ですよ（木村研）

■みずうみ読書の家

〈一　般〉▽思い出コロッケ（諸田玲子）▽小暮写真館、おそろし（宮部みゆき）▽後悔と真実の色（貫井徳朗）▽警察の紋章（佐々木譲）▽方丈記（安良岡康作）▽絵本の処方箋（落合恵子）▽仇敵（佐伯泰英）▽化石の愛（池永陽）

〈ロータリー文庫〉▽第四紀逆断層アトラス（池田泰隆）▽ふくしまの火山と災害（長橋良隆）▽日本の地形レットデータブック１・２（小泉武栄）▽日本近海における海底火山の噴火（小阪丈予）▽原寸大昆虫館（小池啓一）▽ミツバチマーヤの冒険（ワイデル・ポンゼンス）▽妖精プック花の旅、ファーブル昆虫記の虫たち　全６（熊田千佳慕）▽まるごと日本の生きもの（木村義志監修）

●開館時間
午前10時より午後４時20分まで
（※毎木曜日・祝祭日休館）

●10月の休館日
７日・11日・14日・21日・28日・11月５日

あぶた読書の家　☎76-2100
みずうみ読書の家☎75-4702

今月の１冊

いわむらかずお作　「14ひきのおつきみ」

14ひきシリーズ（全12巻）

14ひきシリーズは１９８３年出版された本です。「大きな森の木を改造した家に住む１４匹の大家族のねずみ一家の日常生活を通し家族の団らんや喜びを描いた絵本。海外でも翻訳出版されるロングセラー絵本で世界中の子ども達に親しまれています。

◆消費者だより◆

今年は豊作！道産米うまさの秘密は？

北海道米はかつて　美味しくない米　の代表でしたが、「きらら３９７」を境にイメージ一新。昨年の北海道米の道内食率は78％まで上り、安くて美味しいと評価が高まっています。

「きらら３９７」は昭和56年から開発。当時、国は減反政策を進めており、北海道米は美味しくなかったため他県よりも多く減反されていました。それまで寒さに強く、収量の高い品種を作る方針でしたが、量ではなく美味しさを求める方向へと変えたことが　おいしい米　出現の背景といえます。

今では北海道米が本州でも人気で、21年８月末現在、33％が道内で販売されていますが、残りは全て道外へ。北海道米は冷涼な気候から害虫や病気の発生が低いとされており、農薬の使用量も本州の８割程度です。

しかし、相変わらず日本人の米離れは進み、年間一人当たりの消費量はピーク時の半分以下。40％程度しかない食料自給率向上、地産地消の推進のためにも安くて美味しい北海道米を積極的に食べていきたいものです。

◆あなたはどの北海道米を選ぶ

①きらら３９７…かむほどに甘み豊か。丼やピラフに②ほしのゆめ…食感はやわらかめ。合わせるメニューを引き立てる③ななつぼし…冷めてもおいしい。弁当やすしにも④おぼろづき…粘りが強く、炊き込みご飯にも⑤ふっくりんこ…ふっくらとした食感。やわらかめ。和食に最適⑥ゆめぴりか…粘り、やわらかさ、甘みの三拍子。おにぎりにも。